

定例会前の情報、意見交換会

1 戸建住宅部会（岩下克己部会長）

13社が所属する大所帯。各社の状況を把握することで鹿児島県の現状が分かる。ざっくりとした意見交換を行い、家づくりにおけるデザインやコンセプトなどを発表する場を設けていきたい。また、共通認識を図るために、勉強会、研修会の内容を模索していきたい。



2 住宅宅地流通部会（里良男部会長）



密な交流を図るためにインターネットでホームページを作成。不動産などの情報を一早く発信し、会員との意思疎通に活用している。各自が持ち合わせている情報を随時更新して、より開かれた部会活動を目指していきたい。

次回定例会のご案内

next schedule

日時 平成27年11月19日（木）18:00～ 場所 鹿児島サンロイヤルホテル（鹿児島市与次郎）

演題：「次世代住宅スマートエネルギー（ベストミックスの考え方）（仮）」

講師：ENEOS グローブエネルギーシステム開発部
システム販売グループマネージャー 我戸 護氏
九州地区担当マネージャー 川畑 禎久氏

受付 17:30～
研修会 18:00～
定例会 19:00～



一般社団法人 鹿児島県住宅宅地産業協会

KAJUKYO

鹿住協だより Vol. 3
2015年9月号

【事務局】
〒890-0073 鹿児島市宇宿2丁目1-8 日米礦油ビル
TEL 099-285-0101 FAX 099-285-0122

情報交換で共通認識を

9月定例会

県住宅宅地産業協会（逆瀬川勇理事長）は9月17日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで9月定例会を開いた＝写真＝。会員ら約50人が参加し、各委員会、部会ごとに情報交換を行い、今後の事業展開について共通認識を図った。また、2017年11月に全国住宅産業協会（全住協）の全国大会が本県で開催されるといううれしい報告もあった。

逆瀬川理事長は「全住協からの要請を受け、設立間もない本県での全国大会開催が決まり、大変喜ばしいことである。大会成功に向けてこれからの2年間、全国の会員を迎える体制づくりと強い心構えが必要になる」と決意を述べ、より一層の協力を求めた。



来賓挨拶では、和田里志始良市議会議員が「久しぶりに皆さまにお会いすることができ、大変うれしい。顧問として、協会発展のお役に立てるよう取り組んでいきたい」と言葉を寄せた。また、新入会員の山口俊彦氏（㈱アーバン開発）と市田寛信氏（㈱



市田兄弟土木）の紹介もあり、両氏はそれぞれの立場で抱負を語った。

このほか、各委員会、部会ごとに活動の現状を説明。委員長、部会長が登壇して、取り組みの内容や、今後の方向性を示した。

懇親会では、上野敏孝副理事長の乾杯の発声で開宴。参加者は互いに杯を酌み交わし、協会のさらなる発展と2年後に開催される全国大会成功に向けて決意を新たにした。



全住協全国大会

再来年（'17年）は鹿児島県で全国大会開催を決定!!



一般社団法人全国住宅産業協会（全住協）の第48回全国大会が、札幌市の札幌パークホテルで開催され、全国の会員や来賓など、約570人が参加した＝写真＝。

大会は、前回の開催地協会であった（一社）静岡県都市開発協会の吉田立志理事長が開会宣言。全住協関係物故者に対する黙禱が行われたあと、神山和郎全住協会長が登壇。神山会長は、全国大会への参加のお礼を述べるとともに、当大会で提起する提言および大会決議に対する意義を述べ、「きょうの大会を会員相互の交流を深めるよい機会にして欲しい」と呼び掛けた。



全住協神山会長を囲んで

また、来賓として北海道議会議長の遠藤達氏らが祝辞。会の盛会を祝うとともに、それぞれの立場から住宅産業の展望と今後の取り組みを語った。政策提言、大会決議が行われたのに引き続き、全国から選ばれた優良団地表彰が行われ、鹿住協から㈱富士土木エンジニアリグの「シャイニーヒル広木」が宅地関係部門で優良団地表彰を受賞。代表取締役の西

元春義氏に賞状や楯が手渡された。

（一社）信越住宅産業協会の新井精一理事長が開会宣言。全住協をはじめ、そこに集うすべての協会および会員の更なる発展を祈念して大会を終了した。なお、次期開催地が東京、そして2017年の開催地が鹿児島と発表された。

今回、鹿児島県住宅地産業界協会（鹿住協）からは、逆瀬川理事長夫妻をはじめ、会員23人が参加。これは、全17協会で7番目となる参加者数となった。

喜びの声

シャイニーヒル広木
優良団地表彰

西元 春義氏



受賞は、鹿住協からの推薦を受け全住協から表彰されたもの。西元社長は「すべての関係者に感謝したい。今後も技術の研さんに努め、利便性のある住みよいまちづくりに取り組んでいきたい」と喜びを語った。

シャイニーヒル広木は、山と谷による複雑な地形であったが、見事に高級団地として変貌。1万㎡（3000坪）を超える地区計画の基準もクリアし、施工も順調に推移した点などが高く評価された。

戸数は100戸以上。その約7割に住宅が建ち並び、近隣に商業施設や学校などがあり市街地に近い立地。眺望や日当たりもよいことなどが、大手ハウスメーカーや一般消費者に受け入れられた要因となった。



スキージャンプの葛西氏が講演

逆境こそ最大のチャンス



大会後は、スキージャンプでレジェンドと称される葛西紀明氏が記念講演。同氏は、1994年のリレハ

ンメル冬季五輪で団体銀メダル、2014年のソチ冬季五輪では、個人で銀、団体で銅メダルを獲得。現在も、㈱土屋ホームスキー部の監督兼選手として活躍している。

講演では、貧しかった生い立ちから家族の病気、自身の大怪我など、長い競技人生の中でのいくつもの苦難を乗り越えてきた話を熱弁。「逆境をチャンスと捉え、それを乗り越えたときに明るい未来が開ける」と述べた。

また、おもむろにポケットから輝かしいオリンピックメダルを取り出し、「皆さん、あとで自由に触って、オリンピックメダルのパワーを持って帰ってください」と笑顔。多くのエピソードとユーモア溢れる話に会場は笑いと涙に包まれた。

地方創生と今後のまちづくり研修会 NPO法人鹿児島技術士の会、県住宅地産業界協会共催

NPO法人鹿児島技術士の会（新留司理事長）と県住宅地産業界協会（逆瀬川勇理事長）共催の「地方創生と今後のまちづくり研修会」が10月10日、鹿児島市の鹿児島市勤労者交流センターであった。関係者約50人が参加。人口増のための施策やまちづくりの在り方について理解を深めた。

研修会では、鹿児島市の阪口進一副市長が講師を担当。人口減少や少子高齢化が進む現状を踏まえた上で、国や県の施策、鹿児島市の総合戦略について説明した。阪口副市長は、「2008年に始まった人口減少は、今後加速的に進む。今、何かしらの対策を立てていかなければならない」、「地方における安定した雇用創出、新しいひとの流れ、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることが重要」と述べた。

また、まちづくりにおいては、「住宅や店舗などの郊外立地が進み、市街地が拡散し低密度な市街地が

形成されている」と課題を指摘。日常生活に必要なサービス（医療、福祉、公共交通など）を提供できるコンパクトシティの実現に向けて「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携させる必要がある」と今後の指針を示した。

参加者は、メモを取るなど真剣な表情で聴講。質疑応答では、活発な意見交換が行われた。

